



ファームウェアバージョン:	V1.01.B005	
ハードウェアバージョン:	DGS-1100-08PV2	A1/A4
発行日:	2023/2/15	

本リリースノートには、D-Link 製スイッチのファームウェア更新に関する重要な情報が含まれています。ご使用のスイッチに対応するリリースノートであることを確認してください。

- 新しいスイッチにインストールを行う際には、デバイス上のハードウェアバージョンの表示を確認し、ご使用のスイッチがファームウェアのシステム要件を満たしていることを確認してください。ファームウェアとハードウェアの互換性についての詳細情報は、“変更履歴とシステム要件”の項を参照してください。
- 新しくリリースされたファームウェアへのアップグレードを行う場合は、“アップグレード手順”の項を参照しながら正しい手順でファームウェアのアップグレードを行ってください。

スイッチ本体に関する詳細な情報が必要な場合は“ユーザマニュアル”を参照してください。

目次：

変更履歴とシステム要件：	2
アップグレード時の注意事項：	2
アップグレード手順：	2
追加機能：	4
修正した問題点：	4
既知の問題：	4

変更履歴とシステム要件：

ファームウェアバージョン	リリース日付	モデル	ハードウェアバージョン
Runtime: V1.01.B005	2023/2/xx	DGS-1100-08PV2	A1/A4

変更履歴	
2023/2/15	・初版リリース
2023/8/30	・対応製品に DGS-1100-08PV2/A4 を追加 ・DGS-1100-08PV2/A4 に関する制限事項、アップグレード時の注意事項を追記

アップグレード時の注意事項：

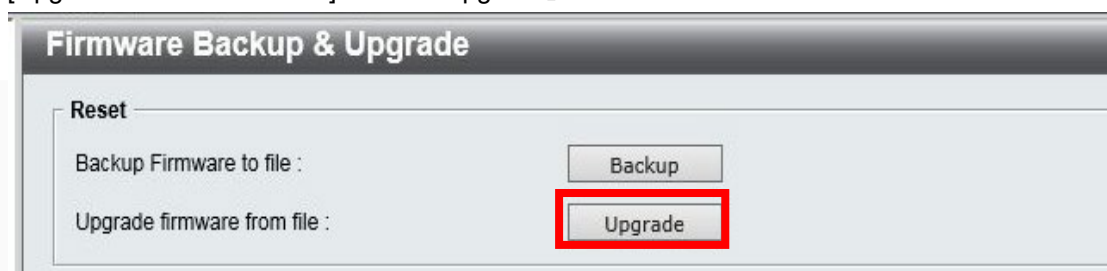
H/W バージョン：A4 のデバイスをご利用の場合、PoE チップセットの制限により、以前のバージョン（V1.00.B006）はサポートされません。A4 デバイスを V1.00.B006 へダウングレードしないでください。
※V1.00.B006 を実行中の A1 デバイスで取得したコンフィグレーションファイルを A4 デバイ스에適用することは可能です。

アップグレード手順：

ファームウェアアップグレードは、WebGUI から実行することができます。

Web GUI を使用したアップグレード

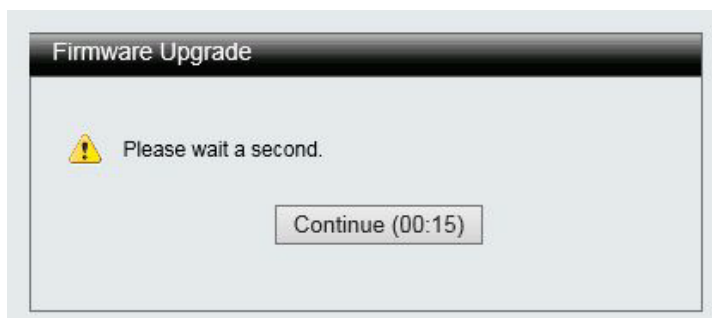
1. Java SE runtime environment をダウンロードして、お客様の PC にインストールします。
2. ブラウザを起動し、システムの IP アドレスを指定してスイッチにアクセスします。
デフォルトのシステム IP アドレス：10.90.90.90
デフォルトのログインパスワード：admin
3. [Tools] > [Firmware Backup & Upgrade]メニューを選択します。
4. [Upgrade firmware from file]項目で「Upgrade」ボタンをクリックします。



注意：「Upgrade」ボタンをクリックして次の[Firmware Upgrade]画面に移動すると、キャンセルができず、システムを再起動するまで通常の管理画面に戻ることができませんのでご注意ください。

5. 確認メッセージが表示されるので、「OK」ボタンをクリックします。

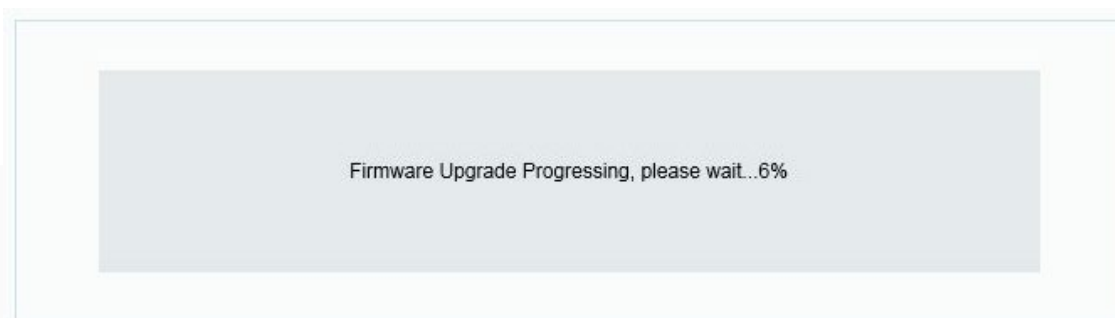
6. 以下の画面で十数秒待機します。



7. 「ファイルを選択」ボタンをクリックし、ローカル PC 内のファームウェアファイルを指定します。



8. 「Upgrade」ボタンをクリックします。
9. 確認メッセージが表示されるので、「OK」ボタンをクリックします。
10. アップグレードの進捗を表す画面が表示されます。



11. 「Firmware Upgrade Successful. Please login again after device boot up.」というメッセージが表示された後、再起動が完了するとログイン画面が表示されます。

注意：ファームウェアのダウンロード中およびスイッチの再起動中に、電源を切らないでください。電源を切ると、起動に失敗し、起動できなくなることがあります。故障の原因となりますので、ご注意ください。

12. 「Device Information」でファームウェアのバージョンが更新されていることを確認します。

追加機能：

ファームウェアバージョン	追加機能
R1.01.B005	<ol style="list-style-type: none"> H/Wバージョン：A4のPoEチップセットに対応致しました。 Perpetual PoEをサポート致しました。

修正した問題点：

ファームウェアバージョン	修正した問題点
R1.01.B005	<ol style="list-style-type: none"> PDアライブ機能について、対象ポートにタグVLANが使用できない問題を修正致しました。 スイッチのIPアドレスのサブネットマスクを変更した場合に、Webインタフェースにアクセス不可になることがある問題を修正致しました。

既知の問題：

ファームウェアバージョン	既知の問題点
R1.01.B005	<ol style="list-style-type: none"> PoE動作に関して、以下の制限事項があります。 <ul style="list-style-type: none"> 「Power Shut Off Sequence」を「Deny next port（既定）」に設定している場合でも、給電余力電力がGuard bandを下回らない限り、「Deny low priority port」として動作します。 「Priority」「Legacy Support」「Power Limit」「MAX Wattage」を変更すると、PoEによる給電が一度停止します。 LLDPによる802.3 Extension TLV広告に未対応のため、IEEE802.3atにおいてLLDPが必須となるPoEデバイスへの給電はサポートされません。 PDアライブ機能に関して、以下の制限事項があります。 <ul style="list-style-type: none"> 複数ポートに重複する「PD IP Address」を指定できません。 PDアライブのアクションは、「Reboot」固定です。 PDアライブのPD IP Addressに対する監視は、設定ポートのみを対象とします。 Gratuitous ARPによるMACアドレステーブルの更新には対応していません。（制限事項） Asymmetric VLANに関して、以下の制限事項があります。 <ul style="list-style-type: none"> Asymmetric VLAN有効時、MAC Address TableのVIDはN/A表示になります。 Asymmetric VLANは、VLAN設定に関わらずVID 1で学習されます。 Asymmetric VLAN有効後、VLANは初期化され、Management VLANは無効化されます。 ループバック検知に関して、以下の制限事項があります。 <ul style="list-style-type: none"> 送信元MACアドレスとして、ポートMACアドレスではなくシステムMACアドレスを使用します。構成により、対向の機器においてFDB Flap、システム宛て通信不安定などの問題が発生する可能性があります。 CTPではなく、Realtek Layer 2 Protocols（Ether Type; 0x8899）を使用します。 ループを検知しても、リンクダウンしません。 ループバック検知とリンクアグリゲーションは併用できません。（制限事項） ストームコントロールはOSPFなどの予約MAC Address宛てのマルチキャストも対象とします。（制限事項） ケーブル診断ではCrossTalkの検出はできません。（制限事項） H/Wバージョン：A4のデバイスをご利用の場合、PoEチップセットの制限により、以

	<p>前のバージョン（V1.00.B006）はサポートされません。A4デバイスをV1.00.B006へダウングレードしないでください。</p> <p>※V1.00.B006を実行中のA1デバイスで取得したコンフィグレーションファイルをA4デバイスに適用することは可能です。</p>
--	--

Copyright 2023 D-Link Japan K.K.